

令和4年度青雲中学校・青雲高等学校評価

学校教育基本方針	急速に進歩発展する科学技術、そして、それによってもたらされる情報化社会、IT社会に対応しうる基礎的な学力と主体性を有し、社会にとって有為な人材の育成を目指す。そのために、学力のみならず、健康な体をつくとともに、如何なる困難にもくじけない不撓不屈の精神を鍛錬する。
学校教育目標	教育の原点にかえり、知・徳・体の調和のとれた全人教育を建学の精神としている。そのために「ゆたかな知性をつちかい、ひろい心をはぐくみ、たくましい体をつくり、新しい時代に生きる人材の育成に努めること」を目標としている。
重点努力目標	①基礎学力の充実をはかるとともに、将来につながる総合的な学力を養成する。 ②中高一貫教育の特性を活かし、ゆとりある進学指導を行う。 ③日常の指導を通じて、公德心を身につけ、豊かな心を有する生徒の育成を目指す。 ④厳しい躰を通して基本的な生活習慣の確立を目指す。 ⑤体育、武道を通じて、生活の根幹となる基礎体力の向上のみならず、礼節を弁え、克己心を確立した生徒の育成を目指す。

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	昨年	令和4年	比較	備考	
1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価								
(1)	学校教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に即した目標が設定され、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神に則った適切な目標を設定する。	3.5	3.5	→	
				教育課題や生徒の実態を踏まえて、本年度の重点目標を設定し、具現化に努める。	3.4	3.5		
(2)	学校経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	明示された中長期の学校経営ビジョンを全教職員が共有し、教育実践に努める。	3.1	3.3	↑	
				教育方針や育てたい生徒像を生徒・保護者・地域社会等に対して明確に示す。	3.2	3.3		
(3)	学年経営	学年目標の具現化	学校目標に沿った学年目標による経営を行う。	学年目標の教員・生徒への浸透を図り、その目標達成のための教育活動を展開する。	3.6	3.5	→	
				学年会議を月1回以上開き、目標の達成状況、指導上の課題等について職員間の共通理解を図り、統一的な指導を行う。	3.5	3.4		
(4)	学級経営	学級目標の具現化	学級目標及び学年目標に沿った温かい学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	3.4	3.5	→	
				個別面談を学期に1回以上実施し、生徒の多面的理解を深める。	3.4	3.5		
				生徒が主体的・意欲的に活動する学級経営に努める。	3.2	3.4		

評価項目		具体項目	目 標	具 体 的 方 策	昨年	令和4年	比較	備考
2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価								
(1)	教育課程の成	創意工夫をかけた適切な教育課程実施	学習指導要領の主旨が生かされた特色ある教育課程を編成する。	普通科としての特性や個々の生徒の進路に適した教育課程を編成する。	3.5	3.6	→	
				教育課程の実効性や、教育目標の達成状況を定期的に検証する。	3.2	3.4		
(2)	教科指導	展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を実施	各教科科目の年間指導計画（シラバス）を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明し、基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。	3.4	3.5	↑	
				教科の専門性や指導力の向上に努め、効果的な授業を行うための研究や研修を深める。	3.3	3.6		
				外部講師招聘、研修などを参考にし、難関大学を志願する学力水準の高い生徒に対する授業の在り方（教材、指導法等）について研究を深める。	2.9	3.5		
				わかりやすい授業づくり・授業改善を推進するため、生徒による授業評価を定期的に実施する。	3.6	3.7		
		適切な学習評価	教職員の共通理解のもとに適切な評価を行う。	評価基準に基づき、共通理解のもとで評価を行う。	3.3	3.6	↑	
				評価をその後の授業に還元し、指導と評価の一体化を行う。	3.2	3.4		
(3)	総合的な学習の時間	狙いが明確で創意工夫をした活動	学習指導要領のねらいをふまえて、地域や学校の特色を生かした活動を行う。	年間計画に基づいて各学年のねらいに沿った学習活動を展開する。	3.3	3.3	→	
(4)	特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画による活動。	年間計画に基づいて、事前準備をよく行い、活発なホームルーム活動を実践する。	3.1	3.4	↑	
		委員会活動の充実	生徒の自発的・自主的な活動を推進する。	生徒の自発性・自主性を促し、積極的に委員会活動に参加させ、発揚の場とする。	3.0	3.2		
		学校行事の充実	実態に即した効果的な行事での活動内容を工夫する。	効果的な学校行事となるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する。	3.1	3.3		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	昨年	令和4年	比較	備考	
2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価								
(5)	生徒指導	基本的習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員でナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う。	出席率を高め、遅刻者を減らす。	3.3	3.2	→	
				あいさつや礼儀、容儀等の指導を徹底し、節度ある規則正しい生活を身につけさせる。	3.1	3.3		
(6)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う。	進路選択に役立つ情報を学年に応じて系統的に提供する。	3.4	3.6	↑	
				進路実現に向け、模擬試験や検定試験、講演会、三者面談等を計画的に行う。	3.6	3.7		
				教科の学力向上とともに、大学・専門関係者によるきめ細かいガイダンスを行い、大学受験において、受験者数については、東京大学40名を目指す。高校1年・2年においても東大志望者増加をはかる。	2.8	3.4		
(7)	読書教育	読書活動の充実	読書活動を通して、豊かな人格と落ち着いた生活態度を養う。	図書だよりの発行に努めるとともに、図書委員を活用して図書館の利用や本の貸し出しの拡大を図る。	3.4	3.7	↑	
(8)	健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	生徒の心身の健康について、学級担任・養護教諭・分掌等の連携を密にした指導を行う。	3.3	3.3	→	
				健康についての調査・指導を計画的に実施する。	3.5	3.5		
			安全な生活を送るための組織づくりを行う。	安全確保について生徒への啓発を促し、組織的に対応できる危機管理体制を整える。	3.3	3.3		
			健康な心で生活を送るための指導を行う。	悩みを抱える生徒の早期発見に努め、適切な教育相談を行う。	3.4	3.4		

評価項目	具体項目	目 標	具 体 的 方 策	昨年	令和4年	比較	備考	
2 教育活動 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価								
(9)	人権・同和教育	人権尊重に対する普遍的価値観の醸成	人権尊重に関するさまざまな課題を認識させ、解決のための実践力を身につけさせる。	日常の教育活動の過程において、人権尊重の精神を培うことにより、互いに助け合い協力しながら課題を解決しようとする態度を育成する。	3.1	3.2	→	
(10)	部活動	部活動の活性化	部活動と学習の両立をはかり、健全な部活動を奨励する。	部活動への参加により、学校生活の満足度を高め、学習との両立を奨励する。	3.1	3.2	↑	
				部活動を通して、達成感、挫折感、忍耐力、協調の精神、コミュニケーション力等を学び、たくましい人間をつくる。	3.0	3.3		
(11)	ボランティア活動	ボランティア活動の充実	ボランティア意識の高揚を図る	ボランティア情報を提供し、主体的な参加を奨励する。	2.7	3.0	↑	
				施設等との協同や地域の環境美化などの、身近で取り組みやすい活動の機会を設定し、奉仕の心を育成する。	2.8	2.9		
(12)	資格取得	各種資格取得の奨励	個に応じた指導の一環として、各種資格取得を奨励する。	英語検定など各種検定やコンテストに果敢に挑戦することを奨励し、学習意欲の喚起につなげる。	3.6	3.8	↑	
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価								
(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	年度の実態に応じ、各分掌の課題確認と分掌業務の改善に努める。	3.3	3.5	↑	
				校務全体の円滑な推進のため、各分掌間・学年間の相互連携を図る。	3.2	3.3		
				分掌ごとの業務記録、資料保存に努める。	3.3	3.5		
(2)	専門委員会	目的に合わせた適切な委員会の運用	目的に沿って適切に委員会を運営する。	各委員会の設置目的を確認し、その実現に向けて効果的な話し合いを行う。	3.1	3.3	↑	
				各種委員会での話し合いの結果を教職員の各業務に反映させ、教育活動や学校経営等に生かす。	3.0	3.3		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	昨年	令和4年	比較	備考	
3 組織運営 教育活動の円滑化、教師集団の協働性に関わる教育的成果の評価								
(3)	校内研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に授業研究等を行う。	生徒の実態や自校の課題を踏まえ、全教職員による校内研修を年3回以上行う。	2.8	3.2	↑	電子黒板教育・体罰研修等実施した。
				指導実践力の向上を図るため、公開授業及びその検討会（授業研究）等の機会を各教科とも年3回以上行う。	2.9	3.4		
				校外研修の受講者が、必要に応じてその内容を他の教職員に伝達する機会を設ける。	2.9	3.3		
(4)	現職教育	教職員の資質向上への取組	各種の研修に積極的に参加する。	私学協会等で開催される研修会を含め各種研修会に積極的に参加し、教職員の資質の向上を図る。	2.9	3.2	↑	
4 教育環境 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価								
(1)	学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	日々の清掃を充実させ、美化意識を高める。	日常の清掃活動に全校生徒、全教職員で積極的に取り組む。	3.4	3.5	→	
				特別な清掃活動（大掃除・地域清掃活動等）を年3回以上実施する。	3.6	3.7		
				日常生活の中で環境美化の意識を高める指導に取り組む。	3.3	3.3		
				コロナ対策をしつつ、省エネ運動を推進する。	3.2	3.4		
(2)	施設・設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備については、定期点検を実施し、環境整備を図り施設設備の使用に際して安全かつの啓蒙を図る。	3.3	3.6	↑	
(3)	情報インフラの設備・充実	教育活動全般の情報化	パソコン等を使った校務処理を適切に行う。	パソコンによる校務処理を推進してデータの共有化を図り、効率的な事務作業を行う。	3.3	3.5	↑	
				パソコン上の生徒情報等の管理の徹底を図る。	3.4	3.6		
				諸帳票類の管理保管体制を整え、適切に運用する。	3.4	3.6		

評価項目	具体項目	目標	具体的方策	昨年	令和4年	比較	備考	
5 開かれた学校づくり								
(1)	保護と連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	保護者との個別面談を年2回以上行い、生徒の状況について学校と保護者が緊密に連絡や情報交換を行う。	3.6	3.8	↑	
				育成会総会等を活用し、生徒の状況について説明を行う機会を設定する。	2.9	3.3		
		育成会活動の充実	支援と活性化を積極的に図る。	自主的な育成会活動が活発に展開され、学校もその活動を積極的に支援する。	2.9	3.4		
				育成会関係の会議への参加率向上に努める。	2.8	3.2		
(2)	地域関係と連携	学校間連携の充実	中学校あるいは他高、大学と必要に応じた効果的な連携を行う。	学校訪問などを利用し、関連校との効果的な情報交換や連携に努める。	2.7	3.4	↑	
				関係の深い中学校や大学等との情報交換や連携。	2.8	3.1		
				本校入学試験において、専願希望生徒の人数を中学150名、高校は特専を含め30名を超える。	2.8	3.3		
		外部講師の活用	教育目標に沿って、外部講師招へいによる教育活動を行う。	2.9	3.4	↑		
(3)	学校情報の公開	ホームページの更新	ホームページを定期的に更新する。	ホームページの更新を定期的に行い、学校情報の積極的発信に努める。	3.4	3.5	→	
				学校情報の内容が、ホームページ更新に反映されるよう担当者との連携を図る。	3.3	3.4		
		学校情報の広報	学校方針や具体的教育活動についての情報を保護者等へ積極的に提供する	学校方針や具体的な教育活動について適切な情報を保護者や関係機関に提供するため、学校新聞（青雲通信）を年2回以上発行する。	3.6	3.7		
				ポスター配布や説明会の開催など適切な広報活動を行い、入試説明会参加者数300名以上を目指す。	3.5	3.7		